

其の邊の呼吸は御承知の筈だつたね、はムムムとところで汝さん、どうだい、暫時の間、
 この乃公の手許で遊び半分の食客になつて見る氣はないかね、どれほど立派に眞面目な出
 世する目的があつて、あんな木賃宿に居るかア知らないが、惜しいもんだよ、自分でも分
 るまいがね、この道には自然の性に叶つた筋があるから、此方は此方に確な前途の見込が
 あつて勤めるんだ、實ア娘にも相談して來たんだが、諺にいふ嘘から出た眞實で、もし出來
 りやア却つて面白い不思議な縁だ、欺して取つたのは業體上、仕方ないが今となつて見
 ると何だか娘も乙な氣になつてるよ、汝さん、面にも似合はない、どツか好いところがあ
 るらしいね、はムムム

最初より黙然たる安田健三、ふはくと生暖き風に包まれて宙に巻き揚げらるゝ心地、ほつ
 と氣は遠く性根を失うて夢うつゝの如くなりぬ、

欠

欠

の不意討に法網を下されて、旭日の照り渡る本郷通街に墮落の淫賣面を曝されながら蝦茶式部の珠數繋ぎ、折しも行き會ひし寫真狂氣に古今無類の珍品と手を拍って寫し撮られしを、また或新聞に醜態の行列と題して掲げられ、満都の女學生に頂門の一針ぐさと刺しぬ、

たゞこゝに一人、欺かれし戀のため世に生甲斐もなく、我に恥ぢて一旦その身を死の手に委せしが、たまく神の手に救はれて蘇生りし曉、眞實の戀は得ざれど、虚偽の戀のために却つて清き心の眞實を照らされつゝ、今は横濱の聖書會員中の信者の首席となりて、その戀の仇をも尊き靈光の下に祈れる田村さだ子あり、

當世女の全編こゝに完りぬ、どこに全體さういふ當世女があるといはれては、聊か迷惑なれ

浪六全集第拾四編
 〆〆
 ど、實は架空の小説でなく、あるべきところには確に現在あるべき筈の事なり、念のため入らざる一言の憎まれ口を叩きぬ。

浪六全集 第十四編(終)

大大大大大
 正正正正正
 八八八八八
 年年年年年
 十八六五五
 二
 月月月月月
 五十五廿二
 五 五十六
 日日日日日
 五四三再發印
 版版版版行別

浪六全集第十四編

定價金貳圓



著者 村上 吉
 發行者 加島 虎吉
 印刷者 守岡 功



場工分社會式株刷印版凸 所刷印

發賣所

東京市日本橋區 本石町三丁目	電話本局長三六六番 二一六七番 振替口座東京一七四四番	至誠堂書店
東京市日本橋區 人形町通住吉町	電話浪花一九四九番 振替口座東京一六三六番	至誠堂第一分店
東京市本郷區 本富士町二番地	電話下谷二五〇二番 振替口座東京一六九四番	至誠堂第二分店

十週年紀念名著出版の内

文學博士 三宅雪嶺先生著

獨言對話

本書は雪嶺先生が平易明瞭の談話體を以て實世間の事柄より深遠の學理に至る人
世一切の問題に就き最後の解決を下したる者收むる所、處世、人物、政治、婦人
及家庭、講演、雜の六門、句々皆金言、社會の一大木鐸たり。一讀修學上に、修
養上に、處世上に、事業上に、國民一般皆一讀して餘師あらむ。

袖珍特製箱入全壹册
紙數六百數十餘頁
定價金貳圓貳拾錢
郵稅金八錢

浪六先生著

裸體の人間

文明の粧飾を悉く剥ぎ取りし「裸
出でたり、製本また總ての無用な
味と實益の兩方面より内容を充
三年以來の著書を人間あらゆる

四六判上製全壹册
紙數四百餘頁
定價金壹圓八拾錢
郵稅金八錢

の人間「こゝに
粧飾を廢して、
しむ、浪六先生
に薦む。

71
1
489

終